製品保証書

品 名	i-Partner	シリアルNo.	
お買上げ年月日	年　月　日		
保証期間	1　年　間		

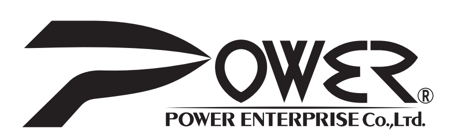
お客様　〒
ご住所
電　話
お名前　　　　　　　　様

販売店
店　名
住　所
電　話

本保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買上げの日から保証期間中に故障が発生した場合は、お買上げの販売店または、当社に修理をお申し付け下さい。
この保証書は本書に明示した期間、下記条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、当社までお問い合わせ下さい。

無料修理規定

1．取り扱い説明書などの注意書などに従った正常な使用状態で故障した場合には、当社にて無料修理致します。
2．　保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合は、お買上げ販売店または、当社に製品と本保証書を一緒にしてお申し付け下さい。
3．保証期間内でも次の場合は有料となります。
　①本保証書のご提示がない場合。
　②本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、および本書の字句が書き替えられた場合。
　③ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および破損。
　④お買上げ後の輸送、落下などによる故障および破損。
　⑤地震、落雷、水害その他の天変地異、事故や異常電圧による故障および破損。
4．本保証書は、再発行致しませんので、大切に保管して下さい。



パワーエンタープライズ株式会社
〒417-0047　静岡県富士市青島町43
TEL.0545-52-0123　FAX.0545-52-0103



i-Partner

取扱説明書

はじめに

この度は､｢i-Partner｣をお買い上げいただきまして､誠にありがとうございます。
この取扱説明書には、i-Smart本体の機能、配線方法、操作方法、および使用上の注意について記載してあります。
i-Partnerの機能を十分にご理解いただき、安全かつ効果的にご利用いただくために、ご使用前に必ず取扱説明書をよくお読みになり正しい使用法で使用してください。
取付け後も本取扱説明書および車種別配線図を大切に保管してください。
なお、i-Partnerは競技専用部品です。公道では道路交通法等の法規に従って使用してください。
また、本製品は精密機械ですのでお取扱いには十分ご注意ください。
商品の外観、仕様、価格等は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

目次

◇はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
◇目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
◇パーツリスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
◇機能と特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

安全にご使用いただくために
◇一般注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

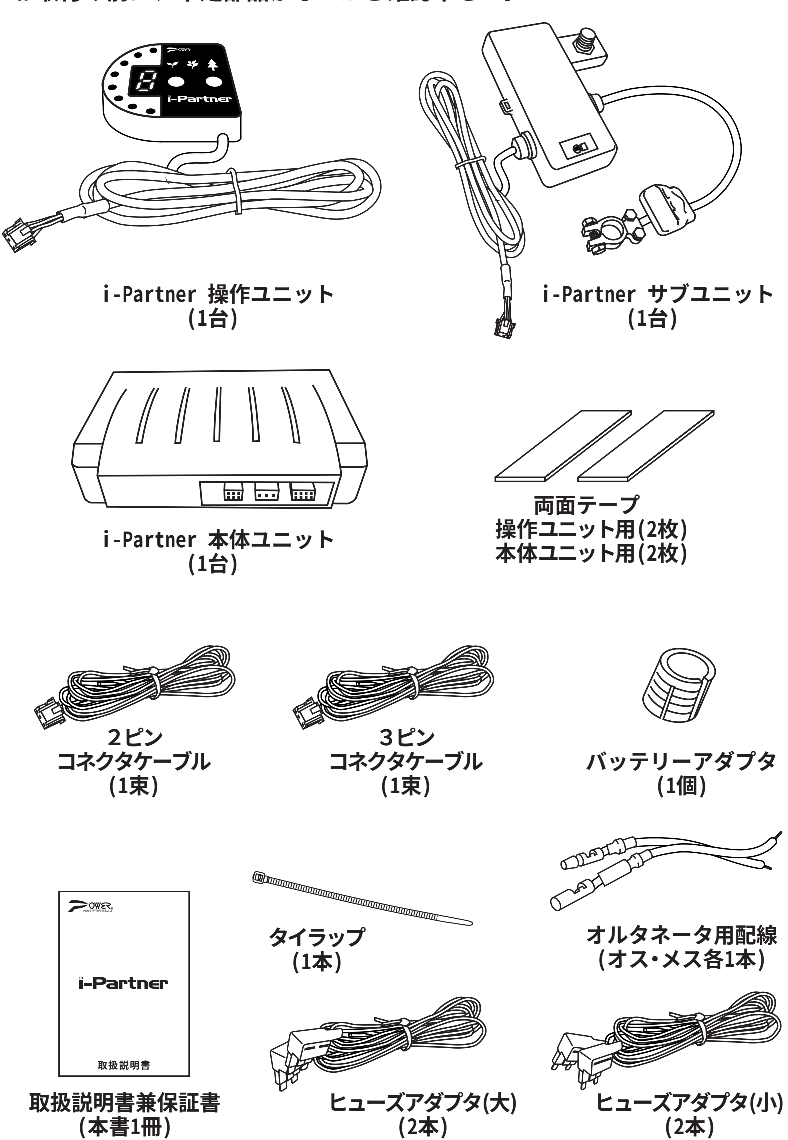
配線・取付け方法
◇取付け時の注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
◇取付概略図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
◇作業手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

操作方法
◇各部名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P13
◇操作時の注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P13
◇操作一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P14
◇動作確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P15
◇初期設定１.<アクセルの学習> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P17
◇初期設定２.<車速の学習> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P19
◇表示機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P21
・エコナビゲーション機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P21
・バッテリー電圧表示機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P22
・アクセル開度表示機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P22
◇バッテリー保護機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P23
◇オルタネータ制御機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P24
◇ヘッドライト自動消灯機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P25
◇エアコン自動停止機能 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P26

トラブルシューティング・その他
◇トラブルシューティング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P27
◇ヘッドライト信号線の加工について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P29
◇保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 裏表紙

パーツリスト

お取付け前に、不足部品がないかご確認下さい。



機能と特徴

エコナビ機能

・バッテリー電圧表示
11.0Ｖ～14.5Ｖを0.5Ｖ単位で表示します。
・アクセル開度表示
０～100%を８個のＬＥＤで表示します
（０～40%は10%単位で、40～100%は15%単位で点灯します。）
・エコレベル表示
車速とアクセル開度に応じてi-Partnerがエコ運転を評価します。
瞬間ごとのエコレベルを８個のＬＥＤで表示する他、１分間のエコ評価と運転を開始してからの累積のエコ評価を、「表示なし→双葉→草→木」の４段階で表示します。

バッテリー保護機能

バッテリー電圧が12.0Ｖ以下に低下すると、バッテリーをシステムから切り離し、消費電力をカットしてバッテリーの消耗を防ぎます。しかも、微弱な電力は供給し続けるため時計やオーディオなどの設定を消去しません。
エンジンが始動している時はバッテリーカットしないので、万が一純正のオルタネータが壊れるなどのトラブルが発生しても、走行中にエンジンが急停止してしまうなどの心配はありません。
この機能は操作ユニットのボタンでＯＮ・ＯＦＦを切替えできます。



機能が作動した時は、バッテリーが上がる要因を検証し、解決してください。
原因を解決しない限り再度バッテリー上がりが発生する恐れがあります。

オルタネータ制御機能

アイドリング～極低速度域ではオルタネータの発電を停止し、走行中の下り坂など、アクセルオフの惰性で走行している時の発電エネルギーを蓄えます。
アイドリング時のエンジン負荷を低減し、燃費を向上させます。
長時間のアイドリングなどでバッテリ電圧が低下した時は、自動的に発電を開始するため安心してご使用いただけます。
この機能は操作ユニットのボタンでＯＮ・ＯＦＦを切替えできます。

ヘッドライト自動ＯＦＦ機能

停車すると約３秒後にヘッドライトが自動的に消灯し、バッテリのムダな消費を抑えます。
この機能は操作ユニットのボタンでＯＮ・ＯＦＦを切替えできます。

エアコン自動ＯＦＦ機能

一定のアクセル開度を超えた加速をするとエアコンを停止させ、エアコンの駆動力を車の加速力に転換します。
また、送風は停止しないので、通常の加速時間であればエアコンの余熱・余冷効果によって車内の快適性が保たれます。
この機能は操作ユニットのボタンでＯＮ・ＯＦＦを切替えできます。

安全にご使用いただくために

この取扱説明書には、あなたや他の人の財産や身体への損害を未然に防ぎ、本製品を安全かつ効果的にご使用いただくために守っていただきたい事項をマークと共に記載しています。
必ずこの取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになり、十分にご理解いただいた上でご使用ください。
本書中で使用されているマークと、その意味は下記のようになっています。



財産や身体に重大な被害が発生する恐れがあるもの。



車両や製品の破損および故障等を引き起こす恐れがあるもの。



本製品を使用するにあたって必ず知っておいていただきたいこと。

一般注意事項



本製品の分解や改造は絶対にしないでください。本体の故障や破損の原因となります。お客様が分解や改造を行った場合、保証期間内であっても無償修理を行えなくなります。

製品保証書(本取扱説明書裏表紙)は販売店および指定事項をご記入の上、大切に保管してください。また、修理の際には保証書を必ず添付してください。記入もれや販売店の記入がない時は有償となる場合がございます。

製品に強い衝撃を与えないでください。故障や破損の原因となります。取付け時等の落下にご注意ください。

本製品に故障または異常があった場合は、ただちに使用を中止し、販売店または弊社までご連絡ください。

本製品を使用しての事故や車両故障、破損、違法行為等につきましては、弊社では一切の責任を負いかねます。

本製品を取付けた車両を他の人に貸出し、または譲渡する場合は、必ず本製品が取付けられていることを知らせ、この取扱説明書と保証書も必ず渡してください。

配線・取付け方法

取付け時の注意事項



適合車種以外の車両に取付けないでください。走行に支障をきたすような不具合が生じたり、車両を破損させる可能性があり危険です。

ハンドルやシフトレバー、ペダル、その他運転の妨げになる所へ本体ユニットや操作ユニットを取付けたり、配線を取り回すことはおやめください。事故の原因となり大変危険です。

本体ユニットや操作ユニットを湿気やほこりの多い場所、直射日光の当たる場所、熱のこもる場所、ヒーターの吹き出し口の近く等に設置しないでください。本体の変色、変形、製品の誤作動、故障や破損の原因となります。

配線作業を行う際には、必ずキーシリンダーからキーを抜き、バッテリーのマイナス端子を外してください。
配線のショートによるi-Smartの破損、車両の破損や火災の恐れがあり、大変危険です。



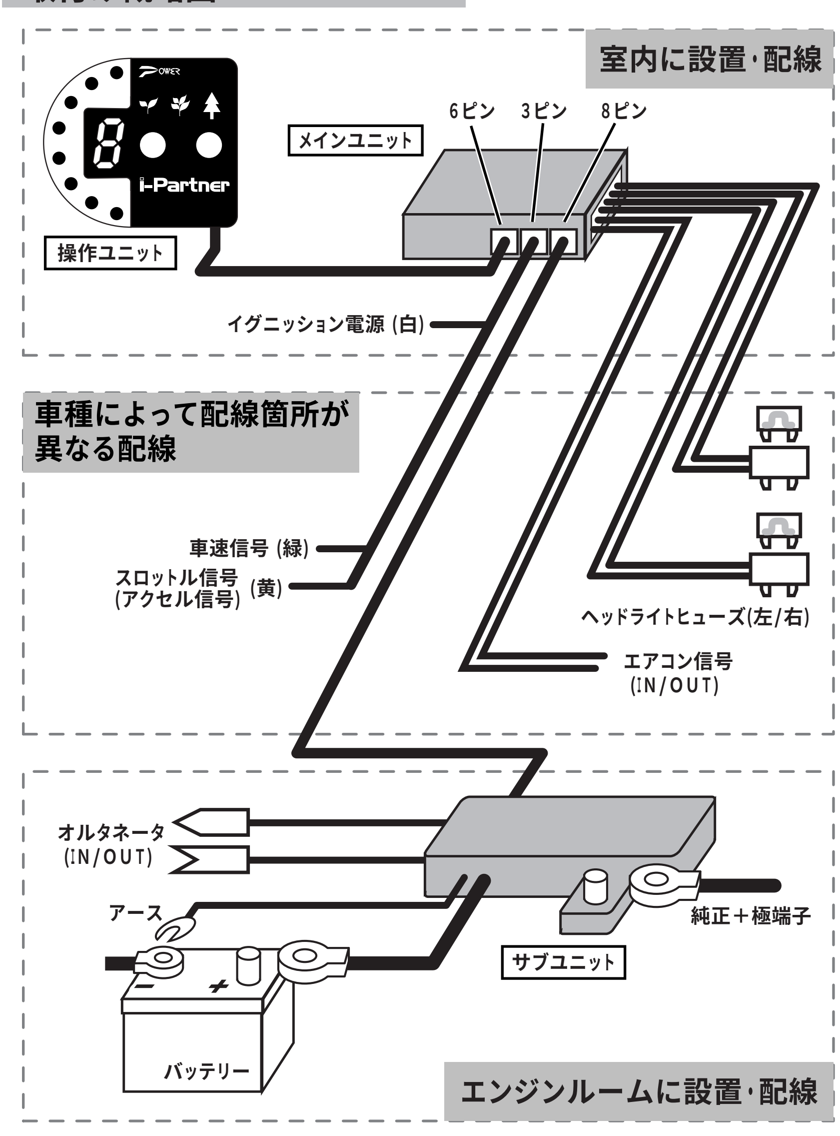
本製品の取付けには、必ず専用の車種別ハーネスを使用してください。

取付けは専門店にて行ってください。誤った配線を行うと車両火災等の重大なトラブルの原因となります。
エンジンルーム等の、水の影響を受けやすい場所への配線を行う場合には、接続部分に絶縁処理、防水処理を必ず行ってください。

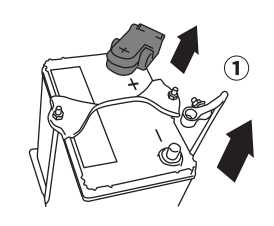
コネクタを抜き差しする場合は、コネクタ本体を掴んで作業して下さい。ハーネスを引張るなどして無理な力を加えると断線する恐れがあります。

取付け概略図と取付け手順

取付け概略図



作業手順





作業中のショートを避けるため、必ずマイナス→プラスの順番でケーブルを取外してください。

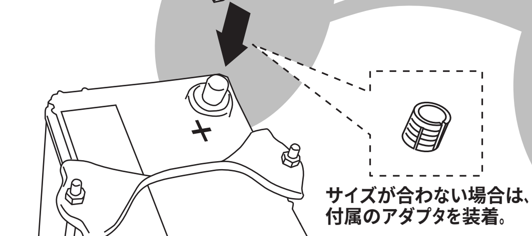
③

i-Partner サブユニット

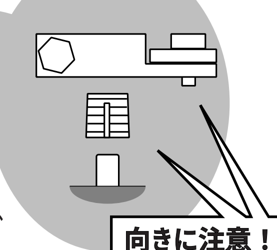
②

8ピンコネクタは室内へ

④



サイズが合わない場合は、付属のアダプタを装着。



向きに注意！

① バッテリーから、マイナス端子ケーブル・プラス端子ケーブルを順番に外してください。

② 純正ハーネスなどがエンジンルームから車室内に引込まれている箇所を探し出し、そのゴム栓にカッターなどで切込みを入れて、サブユニットの８ピンコネクタをエンジンルームから室内に引込んでください。

③ サブユニットの端子に、純正のバッテリープラス端子を取付け、純正の絶縁カバーをしっかりと被せてください。

④ サブユニットのプラス端子ケーブルを純正バッテリのプラス端子に取付けてください。
取付け後、絶縁カバーをしっかりと被せてください。

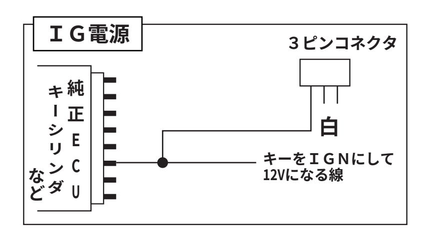
危険

絶縁カバーは確実に被せてください。バッテリーやサブユニットの＋極がボディに触れると、車両の故障や火災の原因となり、大変危険です。

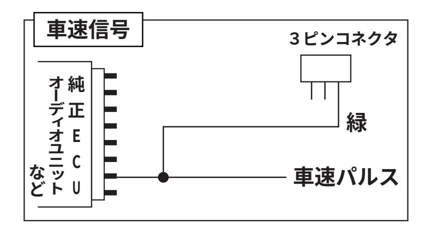
注意

下図のように、向きに注意して取付けてください。部品の天地を誤ると、取付けができなかったり、接触不良を引起こします。

⑤ 以下に従って、配線作業を行なってください。

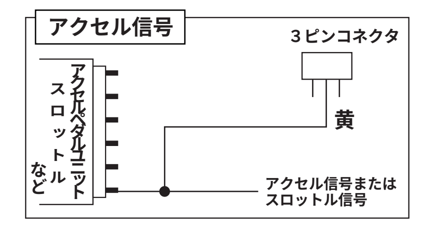


キーシリンダのハーネスやＥＣＵなど、イグニッションキーをＯＮにしたときに１２Ｖになる線に接続してください。



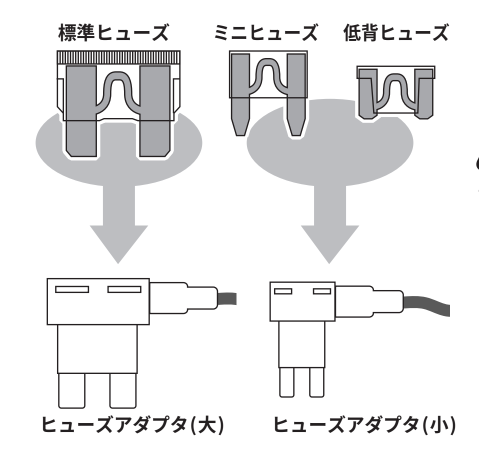
ナビゲーションやＥＣＵ、ＣＶＴコントロールコンピュータなど、車速パルスを発生する線に接続してください。

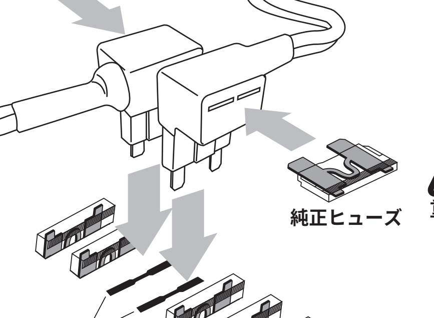
※　付属の車種別配線図に、適合車種の車速信号線を記載しています。



アクセルペダルユニットやスロットルなど、アクセル操作に応じて電圧が変化する線に接続してください。

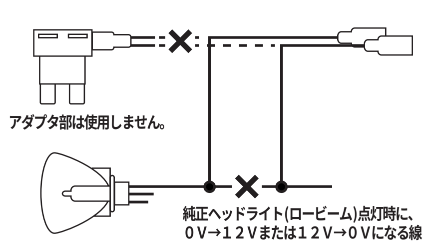
※　付属の車種別配線図に、適合車種のスロットル(アクセル)信号線を記載しています。







※　純正ヒューズは元の位置に取付けてください。



⑥ 純正のヘッドライト左右(ロービーム)のヒューズを抜いてください。



ヘッドライトヒューズの位置は、車両の取扱説明書(通常は車検証と共に保管されています。)を参照してください。

純正ヒューズが低背タイプの場合、別途で同じ容量のミニヒューズを用意してください。

⑦ 純正ヒューズの形状を確認し、左図のように適合するヒューズアダプタが付いているヘッドライトハーネスを選択してください。

⑧ 純正ヒューズをヒューズアダプタに取付け、ヒューズアダプタを純正ヒューズの位置に取付けてください。

重要

純正ヒューズが低背タイプの場合、別途で用意したミニヒューズを装着してください。

ヒューズＢＯＸのスペースなどの都合でヒューズアダプタが取付けできない場合、ヘッドライト電源線を加工して直接配線してください。

ヘッドライト電源線の加工方法についてはＰ２９～に詳しく記載しています。

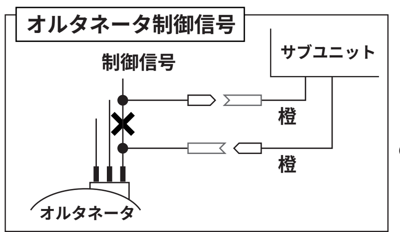


ヒューズアダプタが片方は取付けできるが片方はできない、という場合も左右両方のヘッドライト電源線に配線してください。
片方をヒューズ、片方を配線加工とすると、ヘッドライトの自動消灯機能が正常に動作しないことがあります。



ヘッドライトハーネスの長さが足りない場合は、使わない方のヘッドライトハーネスで延長加工をしてください。

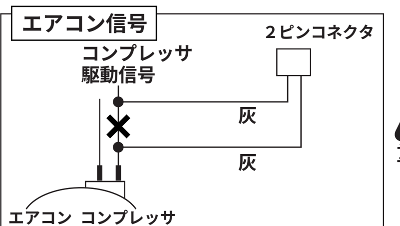
⑨ 以下に従って、配線作業を行なってください。



オルタネータの制御信号線に接続してください。



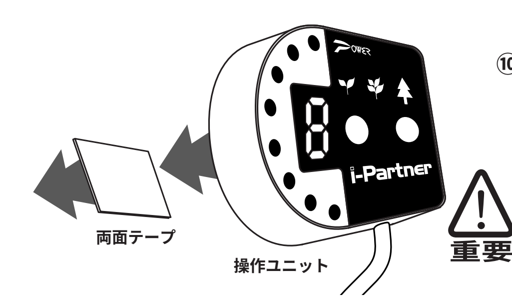
オルタネータ信号までの長さが足りない場合は、使わなかったヘッドライトハーネスで延長加工をしてください。



エアコン・コンプレッサの駆動電源線に接続してください。



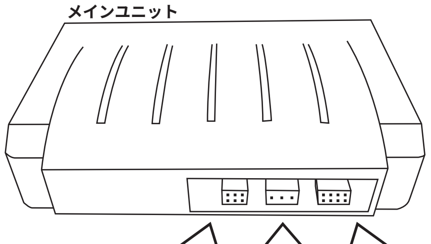
エアコン信号までの長さが足りない場合は、使わなかったヘッドライトハーネスで延長加工をしてください。

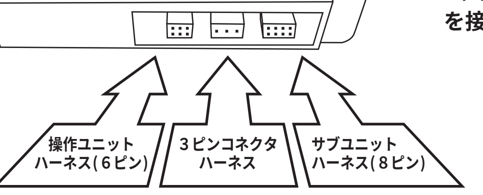


⑩ 操作ユニットに両面テープを貼付け、ダッシュボードなどに固定してください。

重要

太陽光が直接あたる場所などに操作ユニットを設置すると、昼間などではＬＥＤなどの表示が見難くなります。両面テープで固定する前に仮設置し、視認性を確認してから固定してください。





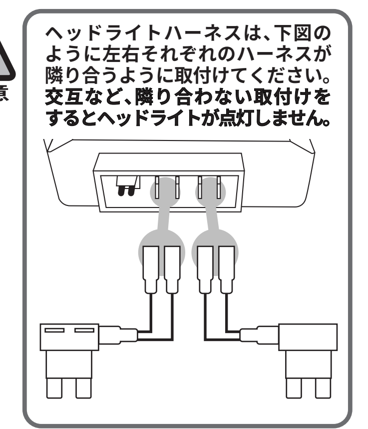
⑪ メインユニットに、
・操作ユニットハーネス(６ピン)
・３ピンコネクタハーネス
・サブユニットハーネス(８ピン)
を接続してください。

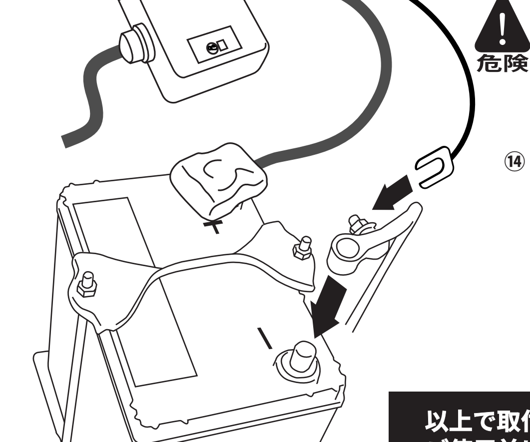
エアコン
ハーネス(２ピン)
ヘッドライト
ハーネス(左右)

⑫ メインユニットに、
・エアコン・２ピンコネクタハーネス
・ヘッドライトハーネス
を接続してください。

注意

ヘッドライトハーネスは、下図のように左右それぞれのハーネスが隣り合うように取付けてください。**交互など、隣り合わない取付けをするとヘッドライトが点灯しません。**





⑬ タイラップを使用して、サブユニットを車体などに固定してください。

危険

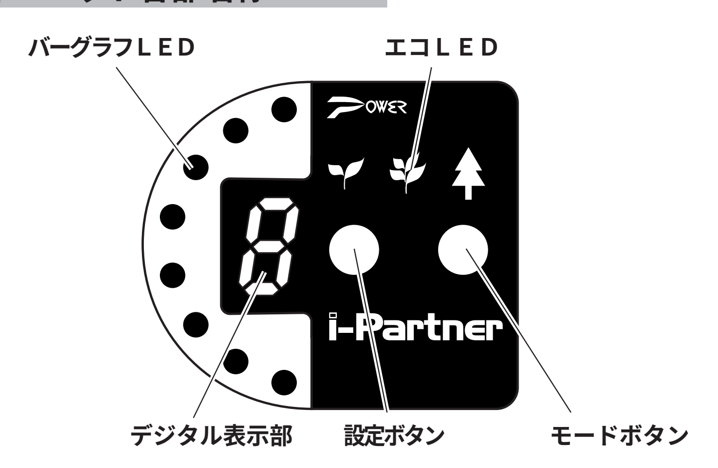
サブユニットやケーブル類が可動部などに巻き込まれないように注意して固定してください。

⑭ サブユニットのアース線を、バッテリーのマイナス端子ケーブルと共に純正バッテリーのマイナス端子に取付けてください。

以上で取付け作業は完了ですが、ご使用前に必ず動作確認(Ｐ１５～)と初期設定(Ｐ１７～)を行なってください。

操作方法

操作ユニット各部名称



取付け時の注意事項



運転者が運転中に本製品の操作を行うときは、脇見運転とならないように十分に注意してください。事故の原因となり大変危険です。

各機能のＯＮ・ＯＦＦ切替えや設定を行なう際には、車を安全な場所に停止させてから行なってください。走行中や信号待ちなどでこれらの操作を行なっていると、急な動作に対応できず事故を引き起こす原因となります。

本製品の操作は、機能を十分に理解している方のみが行なってください。それ以外の方が操作しますと、機能が正常に作動しなかったり、車両や製品の故障を引起こす恐れがあります。

操作一覧

電源ＯＦＦ(全消灯)

イグニッションキーＯＦＦ

イグニッションキーＯＮ

バッテリー電圧を表示（２秒間）

表示モード

バッテリー電圧表示モード → モードボタン → アクセル開度表示モード → モードボタン → エコレベル表示モード

モードボタン（エコレベル表示モード → バッテリー電圧表示モード）

５秒間放置する

設定ボタン長押し

設定モード

バッテリー保護機能ＯＮ/ＯＦＦ切替え

ＯＦＦ（点灯） ⇄ 設定ボタン長押し ⇄ ＯＮ（点滅）

設定ボタン

オルターネータ制御機能ＯＮ/ＯＦＦ切替え

ＯＦＦ（点灯） ⇄ 設定ボタン長押し ⇄ ＯＮ（点滅）

設定ボタン

ヘッドライト自動消灯機能ＯＮ/ＯＦＦ切替え

ＯＦＦ（点灯） ⇄ 設定ボタン長押し ⇄ ＯＮ（点滅）

設定ボタン

エアコン自動停止機能機能ＯＮ/ＯＦＦ切替え

ＯＦＦ（点灯） ⇄ 設定ボタン長押し ⇄ ＯＮ（点滅）

→ エアコン停止するアクセル開度の設定（Ｐ１６参照）

設定ボタン

設定ボタン

初期設定

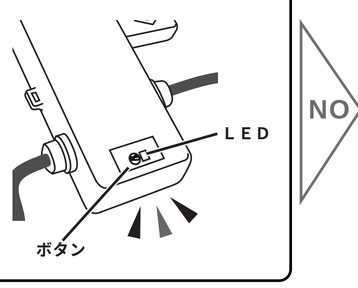
→ 車速の学習（Ｐ１６参照） → アクセル開度の学習（Ｐ１６参照）

動作確認



取付けに誤りがあると、バッテリー電力がなくなり走行中にエンジンが停止したり、夜間にヘッドライトが点灯しないなどの危険が生じる恐れがあります。取付け完了後、走行する前に以下に従って動作の確認を行なってください。

①サブユニットのＬＥＤは緑色に点滅していますか？



NO

- ＬＥＤが赤色に点滅しているときは、サブユニットのボタンを押してください。緑色の点滅になり、５分ほど経過しても緑色の点滅のままであれば異常ありません。
- ＬＥＤが赤色に点滅し、ボタンを押しても赤色の点滅に戻ってしまう場合には、サブユニットのプラス端子またはアース線に接触不良がないか見直してください。
- ＬＥＤが全く点滅していない場合は、サブユニットのプラス端子の接続に誤りがあるか、アース線が外れていないか見直してください。

YES

②エンジンを始動させてください。チェックランプが点灯するなどの異常はありませんか？

START



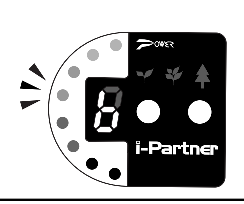
NO

- サブユニットのＬＥＤ点滅を確認してください。赤色に点滅または点滅していない時は、①に戻って再確認してください。
- i-Partnerを取付ける際に外した部品を元に戻し忘れていないか、誤りがないかを確認してください。

YES

次ページの③に進んでください。

③バッテリー電圧表示モードにしてください。アイドリングの状態で、バーグラフＬＥＤが５個以上点灯しますか？

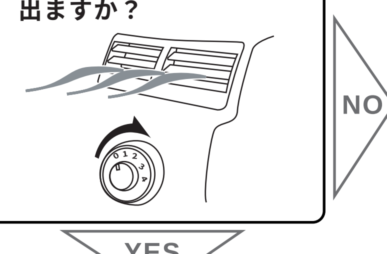


NO

- 走行すればバーグラフＬＥＤが５個以上点灯する場合は、異常ではありません。オルタネータの制御機能がＯＮになっており、発電機能が停止しています。
- 走行してもＬＥＤの点灯が４個以下だが、オルタネータの制御機能をＯＦＦにするとバーグラフＬＥＤが５個以上点灯する場合は、車速信号とアクセル信号の配線を見直してください。
- 走行しても、さらにオルタネータの制御機能をＯＦＦにしても４個以下の場合は、オルタネータ信号線の配線を見直してください。

YES

④ヘッドライトが点灯しますか？



NO

- 走行すればヘッドライトが点灯する場合は、異常ではありません。ヘッドライトの自動消灯機能がＯＮになっているため、ヘッドライトが消灯しています。
- 走行してもヘッドライトが点灯しない場合は、ヘッドライト制御の配線を見直してください。特に、以下のことに注意してください。
  - ●ヒューズ部への差込みが不十分でないか？
  - ●純正のヒューズを忘れずに取付けているか？
  - ●メインユニットへの端子差込み順番が合っているか？

YES

⑤エアコンの温風・冷風が出ますか？

NO

- エアコン駆動信号への配線を見直してください。

YES

取付け完了です。

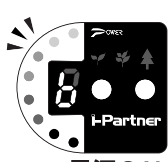
初期設定１．<アクセルの学習>



重要

アクセルペダル(またはスロットル)のセンサーから出力される開度の信号が車種ごとに異なるため、車に合わせて学習をさせます。
エコレベルの表示やエアコン停止の機能を正常に作動させるために、必ずご使用の前に学習を行なってください。





電源ＯＮ

① イグニッションキーをONにし(エンジンは始動させません)、i-Partnerの電源がＯＮになっていることを確認してください。



設定ボタンを押し続ける

② 設定ボタンを押し続けてください(約１秒間)。表示部に「1」が表示されます。



「0」が表示されるまで設定ボタンを押す

③ 設定ボタンを短く押す度に表示部が「１→２→３→４→０→・・・」と変化しますので、表示を「０」にしてください。



設定ボタンを押し続ける

④ 設定ボタンを押し続けてください(約１秒間)。表示部に「S」が表示されます。



設定ボタンを押す

⑤ 設定ボタンを短く押してください。表示部に「Ａ」と表示され、アクセル開度の学習モードになりますます。



モードボタンを押す

⑥ モードボタンを短く押してください。表示部に「Ｌ」が表示され、アクセル開度の学習を開始します。



アクセルペダルから足を離す

⑦ アクセルから足を離した状態で設定ボタンを短く１回押してください。



アクセルペダルを奥まで踏込む

⑧ 表示が「Ｈ」に変わりますので、アクセルを床まで踏込んだ状態で設定ボタンを短く１回押してください。



アクセルペダルを奥まで踏込み、確認。

設定完了

⑨ 表示が「Ａ」に変わり、設定完了です。３秒ほど放置すると、設定モードから表示モードに復帰します。

⑩ アクセル開度の表示モードにし、アクセルを踏んでいない時はバーグラフＬＥＤが１個点灯、床まで踏込んだ時に全部点灯することを確認してください。

初期設定２．<車速の学習>

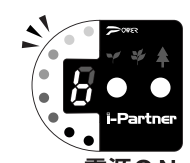


車速信号が車種ごとに異なるため、車に合わせて学習をさせます。
エコレベルの表示やヘッドライト自動停止の機能を正常に作動させるために、必ずご使用の前に学習を行なってください。



車速の学習は、車両を走行させながらi-Partnerの操作が必要になります。公道でない安全な場所で行うか、助手席の人に手伝ってもらうなどし、事故などには十分に注意して行なってください。





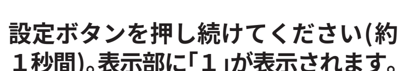
電源ＯＮ



① エンジンを始動し、i-Partnerの電源がＯＮになっていることを確認してください。



設定ボタンを押し続ける



② 設定ボタンを押し続けてください(約１秒間)。表示部に「１」が表示されます。



「０」が表示されるまで設定ボタンを押す

③ 設定ボタンを短く押す度に表示部が「１→２→３→４→０→・・・」と変化しますので、表示を「０」にしてください。

設定ボタンを押し続ける



④ 設定ボタンを押し続けてください(約１秒間)。表示部に「Ｓ」が表示されます。





モードボタンを押す

⑥ ３０㎞/hで走行し、モードボタンを短く押してください。



設定ボタンを押す

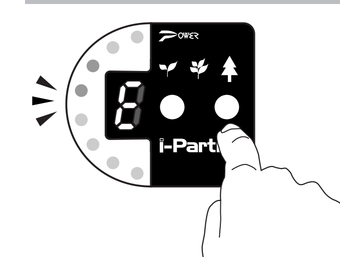
⑦ ３０㎞/hでの走行を維持したまま、設定ボタンを短く１回押してください。



⑧ 表示が点灯に戻り、学習完了です。
３秒ほど放置すると、設定モードから表示モードに復帰します。

表示機能

エコナビゲーション機能



アクセル開度と車速に応じてi-Partnerが走行のエコレベルを評価し、お知らせします。評価には瞬間・１分間・累積の３種類があり、瞬間と累積が常に表示され、１分ごとに１度累積の代わりに１分間評価が表示されます。

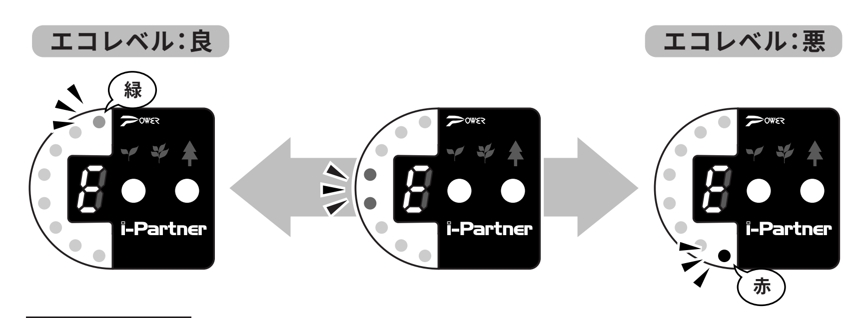


重要

１分間評価および累積評価は、エンジン始動後１分ほど経過してから、表示を開始します。

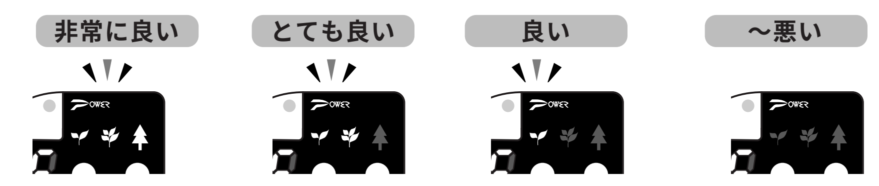
瞬間評価

現在の走行について、エコレベルをリアルタイムに評価・お知らせします。



１分間評価

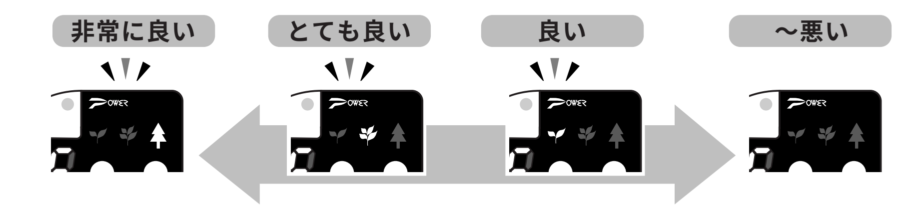
過去１分間の走行がエコレベルの高い運転の場合、エコランプが点灯してお知らせします。
表示モードをアクセル開度やバッテリー電圧にしていても表示されます。



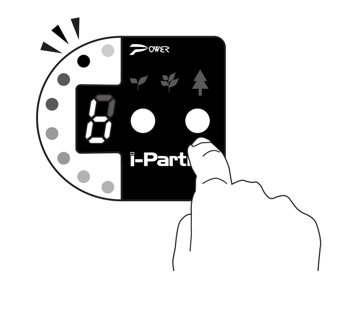
１分ごとに１度、２回だけ点滅して累積表示(次ページ)に戻ります。

累積評価

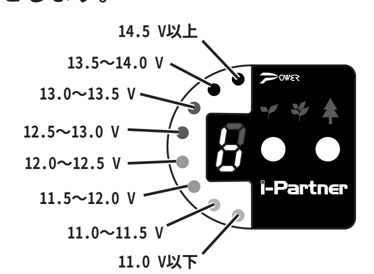
エンジンを始動してからエコレベルの高い運転を続けると、エコランプが点灯してお知らせします。
表示モードをアクセル開度やバッテリー電圧にしていても表示されます。
評価はキーＯＦＦ後約１０秒間保存されるため、アイドリングストップなどでもイグニッションＯＮの状態であれば評価はリセットされません。



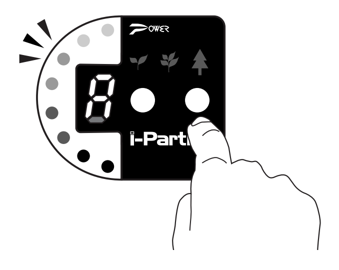
バッテリー電圧表示機能



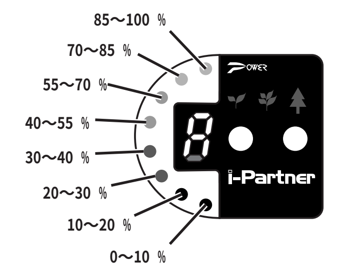
i-Partnerがバッテリー電圧をリアルタイムでお知らせします。



アクセル開度表示機能



i-Partnerがアクセル開度をリアルタイムでお知らせします。



バッテリー保護機能



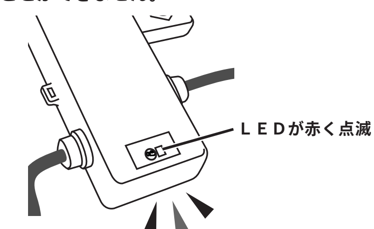
設定モードで「１」が点滅していると、バッテリー保護機能がＯＮになっています。
バッテリー電圧が１２Ｖ以下になると、バッテリーのプラス極からシステムに流れる電流を遮断(※)し、バッテリー上がりを防止します。
走行中やイグニッションＯＮの時は作動しません。

※　時計やオーディオの設定が消去されないように、微弱な電流は流します。

この機能が作動すると ―――

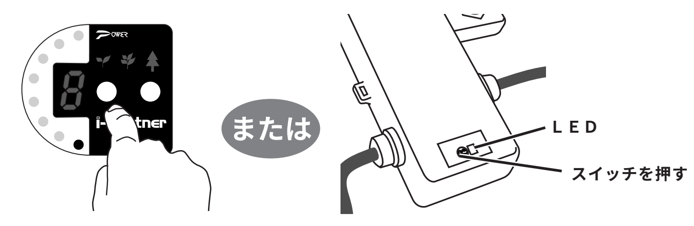
時計やオーディオの設定などを除き、電源の供給が停止しています。
さらに、操作ユニットのバーグラフＬＥＤ１個とサブユニットのＬＥＤが赤く点滅し、機能が作動していることをお知らせします。
この状態のときは、そのままではエンジンを始動することができません。





保護状態から復帰するには ―――

操作ユニットのボタンどちらかを押すか、サブユニットのスイッチを押すことで復帰します。





機能が作動した時は、バッテリが上がる要因を検証し、解決してください。
原因を解決しない限り再度バッテリ上がりが発生する恐れがあります。

バッテリー保護機能が作動したとき、時計やオーディオの設定が必ず保存されるという保証はいたしかねます。
大切な設定などは、別途で保存したりメモをとるなどしておいてください。



保護機能が作動するのは、キーＯＦＦのときのみです。イグニッションＯＮのまま放置してバッテリー電圧が低下したときなどは、保護機能が作動しません。

オルタネータ制御機能



設定モードで「２」が点滅していると、オルタネータ制御機能がＯＮになっています。
アイドリング～低速度域で発電を停止することでオルタネータ駆動によるエンジン負荷をなくし、燃費を向上します。

この機能が作動すると ―――

アイドリング中または極低速で走行するときにオルタネータの駆動電源をカットし、発電機能を停止します。
オルタネータが発電しているときは、デジタル表示部のＬＥＤがクルクルと回る表示になり、発電していることをお知らせします。

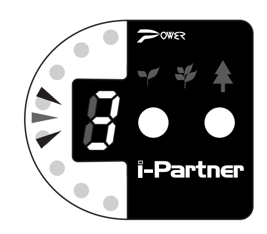




安全のため、バッテリー電圧が１２Ｖ以下になると、機能がＯＮになっていても発電します。

機能により、オルタネータが発電を停止/開始する際にアイドリング回転数が上下することがありますが異常ではありません。
発電を停止するときは、負荷が減るためアイドリング回転数が上昇します。
発電を開始するときは、負荷が増えるためアイドリング回転数が低下します。

ヘッドライト自動消灯機能



設定モードで「３」が点滅していると、ヘッドライト自動消灯機能がＯＮになっています。
信号待ちなどのアイドリング中に、ヘッドライトを自動的に消灯することでムダな電力消費を抑えます。

この機能が作動すると ―――

停車した状態で３秒経過すると、自動的にヘッドライトが消灯します。

ヘッドライトを再び点灯させるには ―――

車両が動くか、アクセル開度が５％以上になると、自動的に点灯します。



重要

キーがＯＦＦまたはＡＣＣのときは、ヘッドライトは消灯しません。

ヘッドライト自動消灯中にキーをＯＦＦにしても、３秒間は機能が作動したままでヘッドライトは消灯しています。



注意

バッテリーが上がりを防ぐため、車両から離れる時には必ずヘッドライトのスイッチがＯＦＦになっていることを確認してください。

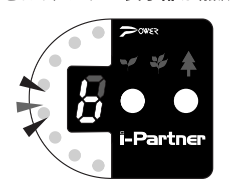
エアコン自動停止機能



設定モードで「４」が点滅していると、エアコン自動停止機能がＯＮになっています。
一定以上のアクセル開度で加速するとき、エアコンのコンプレッサーを停止し、エンジンの負荷を軽減します。
エアコンをＯＦＦするアクセル開度は４０％または６０％を選択できます。

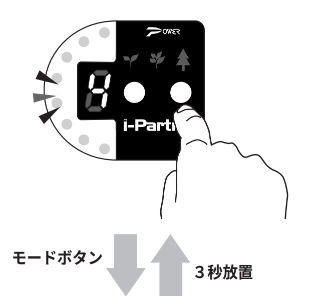
この機能が作動すると ―――

設定したアクセル開度以上までペダルを踏込むと、エアコンのコンプレッサーを停止させます。
エアコンを停止しているときは、デジタル表示部が点滅し、停止していることをお知らせします。



エアコン停止制御中は、デジタル表示部の表示モード「Ｅ、Ａ、ｂ」が点滅。

アクセル開度を変更するには ―――



①設定ボタンを長押しし、設定モードにしてください。
（デジタル表示部に「１」が表示）

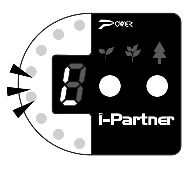
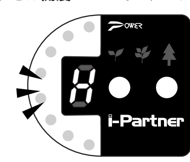
②設定モードを押し、「４」を表示させてください。

③モードボタンを押すと、「Ｌ」または「Ｈ」が表示されます。

④設定ボタンを押すたびに、「Ｌ」⇔「Ｈ」が切替わりますので、40%に設定する時は「Ｌ」、60%に設定する時は「Ｈ」にしてください。

⑤３秒ほど放置すると「４」表示に戻り、設定完了です。
さらに３秒ほど放置すれば表示モードに戻ります。

モードボタン　３秒放置

アクセル開度４０％でエアコンＯＦＦ		アクセル開度６０％でエアコンＯＦＦ
	設定ボタン	
・常用アクセル開度が比較的小さい大排気量車など ・「Ｈ」ではエアコンがなかなか停止しない場合 ・積極的にエアコンを停止し、パフォーマンスを優先したい場合		・常用アクセル開度が比較的大きい小排気量車など ・「Ｌ」では頻繁にエアコンが停止してしまう場合 ・強い加速時のみエアコンを停止し、快適性を優先したい場合

トラブルシューティング

i-Partnerを使用中に何らかのトラブルが生じた場合には、i-Partnerの故障と思う前に以下のトラブルシューティングに従って対策を行なってみてください。トラブルシューティングに従っても問題が解決されない場合や、以下に示されている内容以外の特異なトラブルが発生した場合には、すぐに使用を中止して販売店にご相談ください。

? 取付け後、エンジンが始動しない。

! i-PartnerサブユニットのＬＥＤが緑色に点滅していることを確認してください。(Ｐ15の動作確認の項を参照)
消灯している場合は取付けに誤りがある可能性があります。
赤色に点滅している場合は、サブユニットのボタンを押して緑色に点滅させてください。

? 表示部に何も表示されない。

! i-Partnerメインユニットの８ピン、６ピン、３ピンコネクタに抜けや接触不良がないかを確認してください。

! i-PartnerサブユニットのＬＥＤが緑色に点滅しているかを確認してください。

? ときどき、アイドリングの時に振動が大きくなる。

! オルタネータの制御機能をＯＮにしてアイドリングを長時間続けると、バッテリーの消耗を防ぐために発電を強制的に開始する安全機能が作動します。
発電開始時に一時的にエンジンの負荷が増えてエンジンが振動したり、アイドリング回転数が変化することがありますが異常ではありません。

? ヘッドライトの消灯機能をＯＮにしたが、ヘッドライトが消灯しない。または、減光した状態になる。

! ヘッドライト配線の取付け方法を見直してください。
片側の配線をヒューズ、もう片側の配線をヘッドライト線の加工などで取付けると、このような症状が発生します。

! 車によっては、ロービームとハイビームそれぞれにヒューズがあります。ハイビームのヒューズに取付けしていないかを確認してください。

? エコＬＥＤが点灯しない。

! エコＬＥＤは、エンジンを始動してから１分以上経過しないと、表示されません。
また、走行前に長いアイドリングなどをするとその分も累積されるため、その後走行してもなかなかエコＬＥＤが点灯しないということがあります。

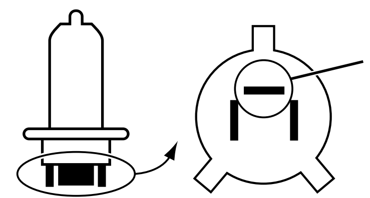
! アクセル開度の学習と車速の学習が正常にされていないと、エコレベルの正確な評価がされません。
アクセル開度の表示モードでＬＥＤがアクセルに連動して動くことと、エコレベル表示モードで惰性走行中に瞬間評価が良い方に動くことを確認してください。

ヘッドライト信号線の加工について

付属ヘッドライトハーネスのヒューズアダプタが取付けできない時には、ヘッドライト信号線を加工して(Ｐ10)取付けてください。

ヘッドライト(ロービーム)のスイッチをＯＮにしたときに、点灯するバルブを確認し、コネクタの端子数を確認してください。
以下の３タイプの中から車両と同じタイプを確認し、Ｐ10を参照しながらヘッドライトハーネスを該当するハーネスに取付けてください。

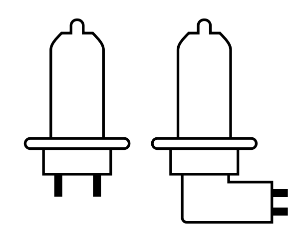
ヘッドライトバルブの端子が３つ(Ｈ４)



バルブを裏(コネクタ側)から見た図

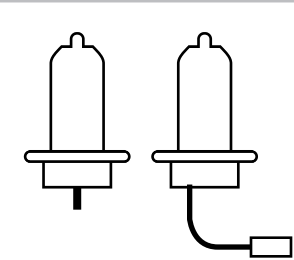
この端子に接続されているハーネスが、ロービームの信号線です。

ヘッドライトバルブの端子が２つ(Ｈ３Ｃ、ＨＢ、など)



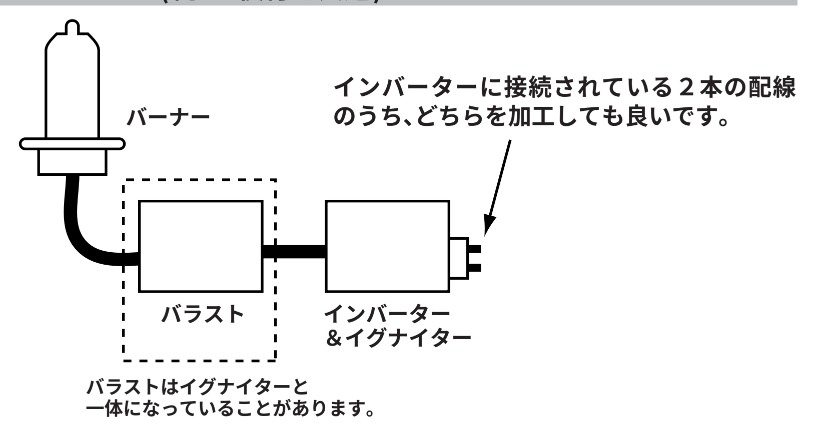
２本の配線のうち、どちらを加工しても良いです。

ヘッドライトバルブの端子が１つ(Ｈ１、Ｈ３、など)



端子に接続されているハーネスを加工してください。

ＨＩＤタイプ(純正・後付け共通)





インバーターからバラスト、バーナーに接続されている配線は非常に高圧になりますので絶対に加工を行なわないでください。
感電や車両の故障などの恐れがあります。